

## 編集後記

本号は、修了生による4本の投稿論文が掲載されている。加えて、一橋大学名誉教授とされた滝沢昌彦教授の最終講義や、一橋大学法科大学院を修了して実務家・研究者として活躍されている先輩方の論文・エッセイも掲載されており、質・量ともに充実した内容のものとなっていると自負している。

招待論文のテーマは、「法科大学院ならではの多様な法曹の姿」である。一橋大学法科大学院を修了した先輩方には、法科大学院での経験を実務や研究でどのように活かしているのかを紹介していただいた。実務家と研究者という異なる立場から、法科大学院、特に一橋大学法科大学院ならではの多様な法曹の姿をお見せすることができたと思う。大変お忙しい中、論文・エッセイを寄稿してくださった、長野友法先生、藤井智紗子先生、柳武史先生、酒井智之先生に心よりの感謝を申し上げる。

一橋大学法科大学院の良さは、「共助」、学生同士が互いに教え合い助け合う文化にある。本号に論文を投稿した修了生たちも、「論文どんな感じ？」という風に、互いに進捗を話し合い、交流を深めていた。また、本号の刊行に当たっては、先輩方に助けていただいた。招待論文を寄稿いただいた諸先輩方は、お忙しいにもかかわらず、私たちの突然の依頼に対して、直ちに本号への寄稿をご了承していただいた。そして、編集を続けていく中で、後輩である私たちと密に連絡をとり、ローレビューをより良くするため、お力添えをいただいた。そして、先輩方の経験を基にした貴重な論文を投稿していただき、本号に花を添えていただいた。一橋大学法科大学院の学年を超えた絆を実感するとともに、世代を超えた「共助」を実現することができた。

修了生たちによる各論文は、一橋大学法科大学院の選択科目「法学研究」で作成した論文に加筆修正を加えたものである。本号は、法学研究で指導してくださった先生方、一橋ローレビュー顧問の但見亮先生、酒井太郎先生をはじめ、多くの方のお力添えにより、刊行することができた。先生方に心よりの感謝を申し上げる。

最後に、一橋ローレビューは、これまで先輩方の尽力によって、学問及び法曹実務の発展という目的を果たしてきた。本号は特に実務家と研究者の諸先輩方の論稿を掲載させていただくことで、この目的を達成することができたと自負している。今後も、多くの学生たちがローレビューに論文投稿してくれること、そして一橋ローレビューが日本の法学界に少しでも寄与することを切に願う。

2024年3月

一橋大学ローレビュー編集委員

文責 武井祐樹